

教科	理科	学年	第3学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元1 化学変化とイオン	26	化学変化について見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連つけてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現するとともに、探究の過程を振り返らせることができるようになる。また、レポートの作成や発表もできるようになる。	化学変化をイオンのモデルと関連づけながら、原子の成り立ちとイオンについて基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	水溶液とイオンについて、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連つけてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現しているとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究している。	水溶液とイオンに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
単元2 生命の連続性	24	理科の見方・考え方をはたらかせて、身近な生物についての観察・実験を通して、生物の成長とふえ方の特徴や、遺伝の規則性、および長い時間の経過のなかで生物は変化して多様な生物の種類が生じてきたことを見いだして理解させるとともに、思考力、判断力、表現力などを育成することが主なねらい	生物の成長とふえ方に関する事物・現象の特徴に着目しながら、細胞分裂と生物の成長、生物のふえ方についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている	生物の成長とふえ方について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、生物の成長とふえ方についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	生物の成長とふえ方に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
単元3 運動とエネルギー	28	運動の規則性やエネルギーの基礎を、身のまわりの物体の運動などの観察や実験を通して、見いだすことがねらいである。目に見える物体の運動における速さについての定義をしてから、速さの変化と力のはたらかしとの関係、目には見えない合力・分解や慣性をあつかい、身近な所にあるエネルギーに目を向けるようになる。運動エネルギー・位置エネルギーと力学的エネルギーをあつかい、理科における仕事についての概念を段階的に形成し、理解できるようにする。	「運動の規則性」「力のつり合いと合成・分解」「力学的エネルギー」を日常生活や社会と関連づけながら、運動の速さと向き、力と運動についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	「運動の規則性」「力のつり合いと合成・分解」「力学的エネルギー」について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、化学的に探究している。	「運動の規則性」「力のつり合いと合成・分解」「力学的エネルギー」に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
単元4 地球と宇宙	22	身近な天体観測の観察記録や資料をもとに、宇宙の広がりや太陽などの構成と惑星のちがいを、太陽系の構造と地球の運動と天体の見え方についての理解できるようになる。	身近何天体とその運動に関する特徴に着目しながら、「月や太陽の表面のようす」「日周運動と自転、年周運動と公転」「太陽系と恒星」についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などにかんする基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	「月や太陽の表面のようす」「日周運動と自転、年周運動と公転」「太陽系と恒星」について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、太陽系と恒星についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	「月や太陽の表面のようす」「日周運動と自転、年周運動と公転」「太陽系と恒星」に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
単元5 地球と私たちの未来のために	24	エネルギー資源の有効利用の重要性や、科学技術の発展の過程や科学技術が人間生活に貢献してきたことの認識を深めるとともに、自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解させ、地域の自然災害をとり上げ、自然と人間のかかわり方について認識を深めさせ、自然環境の保全と科学技術の利用のあり方について、科学的に考察し、適切に判断する態度を養う。	日常生活や社会と関連づけながら、「自然界のつり合い」「自然環境の調査と環境保全」「エネルギーとエネルギー資源、その他の物質の利用」「資源環境の保全と科学技術の利用」についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	「自然界のつり合い」「自然環境の調査と環境保全」「エネルギーとエネルギー資源、その他の物質の利用」「資源環境の保全と科学技術の利用」について、身近な自然環境などを調べる観察、実験などを行い、自然環境保全のあり方について、科学的に考察して判断しているなど、科学的に探究している。	「自然界のつり合い」「自然環境の調査と環境保全」「エネルギーとエネルギー資源、その他の物質の利用」「資源環境の保全と科学技術の利用」に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。